

平成19年度実施事業 事業評価シート

事業名:	カルチャーセンター運営事業	5-12
・運営の方法(1:直営、2:民間委託、3:補助、4:その他)	複数回答可	1 2
・事務の分類(1:自治事務、2:法定受託事務)		1

担当部課	生涯学習部社会教育課	直通電話	72 - 3173
担当部長	飯尾徹	担当課長	清水雅季
		担当者	谷川裕之

1 事業のアウトライン			
(1)事業概要及び交付金額等の積算根拠	3つの「カルチャーセンター」の運営事業 【カルチャーセンター】 小学校の余裕教室を活用し、地域住民の生涯学習の場となるよう、「紅南小学校」「紅葉山小学校」「若葉小学校」の3箇所に設置		
(2)事業開始年度	平成10年度	(3)事業終了年度	未定
(4)総合計画での事業体系	テーマ等	心豊かに学びいきいきと活動するまち	
	施策項目(大)	(1)生涯学習の推進	
	施策項目(小)	学習施設の内容および管理運営体制の充実	
	施策コード	50103	

2 事業の内容	
(1)事業の目的 何のために	だれもが自由に学習機会を選択しながら、生涯にわたって学び続けられる環境を整える。
(2)目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	「カルチャーセンター」を多くの市民に利用してもらおう。
(3)事業の方法 どんな手段を講じるのか	「カルチャーセンター」を生涯学習の場として提供する。
(4)19年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	H19年10月から、紅南小を除く、若葉小、紅葉山小の2箇所については、利用団体の自主管理とした。
(5)事業の背景・社会状況・他の類似事業など	花川北地区では急激な人口増加により、児童・生徒数が膨らみつつあったが、そのピークが過ぎた後は、逆に、学校に余裕教室が生じ始めていたことから、地域に不足していた生涯学習活動の場として活用しようとする気運が高まって設置した。
(6)事業の立案や実施における協働の視点	

3 事業に投入した行政資源				
区 分	H17	H18	H19	H20予算
(1)直接事業費(千円)	6,975	6,850	5,598	3,757
(2)その他の間接経費(千円)	0	0	0	0
(3)従事正職員の人件費(千円)	1,726	1,657	1,794	/
総事業費((1)~(3)の合計:千円)	8,701	8,507	7,392	/
事務に従事した正職員延べ人数	0.20	0.20	0.20	/

4 交付団体の予算・決算 (単位:千円・%)											
入	区分	H17	H18	H19	H20予算	支	区分	H17	H18	H19	H20予算
	市補助金等(A)										
	計(B)	0	0	0	0		計	0	0	0	0
	(A/B)										

5 事業活動の結果 (単位:千円・%)					
活動指標名		H17	H18	H19	H20
「カルチャーセンター」利用団体数	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	67	62	56	/
	達成率	-	-	-	/
「カルチャーセンター」利用件数	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	2042	1984	1867	/
	達成率	-	-	-	/
	目標値				
	実績値				
	達成率				

6 事業の成果		(単位:千円・%)			
成果指標名		H17	H18	H19	H20
「カルチャーセンター」利用者数	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	30,542	30,501	30,026	
	達成率	-	-	-	
	目標値				
	実績値				
	達成率				
	目標値				
	実績値				
	達成率				

7 事業の観点別評価		担当課長が評価します。	
(1) 必要性		(4) 有効性	
ア 市民ニーズ	1 大きい	ア 施策との関連	1 密接な関連がある
社会経済情勢の変化に対する市民ニーズはどうか	2 普通	事業の成果と施策の成果とに関連があるか	2 関連がある
	3 小さい		3 関連はほとんどない
イ 市の関与	1 行政にしかできない	イ 成果	1 すべて達成している
その事業に市が関与する必要があるかどうか	2 民間等でもできる	事業の成果は目標を達成しているか	2 一部達成している
	3 民間等でやるべき		3 達成していない
(2) 効率性		ウ 事業内容	1 極めて妥当
ア コスト削減	1 不可能である	目指す成果の実現を図る上で、今の事業内容は適当か	2 一定の妥当性あり
コスト削減は可能か	2 難しい		3 妥当性が低い
	3 可能である		
(3) 公平性		(1)~(4)の評価ポイント合計	
ア 受益者負担	1 不可能である	総合評価の参考にしてください。	
さらなる受益者負担は可能か	2 難しい	7~11	A or B
	3 可能である	12~15	B or C
		16~21	D or E
		12	

8 課長評価		担当課長が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		自主管理が進むなど、良好な状況である。しかし、利用団体の解散や、利用者の高齢化による利用団体の会員数の減少などにより、全体として利用者の減少状況が続いている。	
B	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2) 今後の方向性・課題		平成22年度に紅葉山小と若葉小との統合が予定されており、両カルチャーセンターの機能を確保できるのか、また代替機能を確保する必要があるかなどの検討する。	
(3) 平成21年度の方向性			
*:担当課長		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		

↓ ここまで担当課長が記載した上で、パブリックコメントを実施し、市民意見を募集します。

9 課長評価に対する市民意見	

10 部長(市長)評価		課長評価に対する市民意見を踏まえて、部長職(もしくは市長)が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		課長評価を了承する。	
B	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2) 今後の方向性・課題		学校統合に伴う既存カルチャーセンターの機能確保についての検討が必要である。	
(3) 平成21年度の方向性			
:担当部長(もしくは市長)		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持		
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		